令和8年度 おだわらゼロアンバサダー事業

気候と海洋のメカニズムから
温暖化する地域の未来を捉える

講演会 企画提案書

企画背景・目的

気候変動が深刻化しており、現在においてもすでに様々な分野において深刻な影響が生じている。今後の影響の深刻化や適応限界に備え、各地域においても脱炭素に向けた意識・行動変容が求められています。

しかしながら、気候変動への危機感や課題意識はまだまだ浸透しておらず、市内の身近な人や何らかの地域活動をしている人であっても、正しい危機感を持ち、脱炭素アクションを実践している人数は多くないと感じています。そこには、そもそも気候変動に関する構造的な理解や課題の大きさ、対策の必要性を知る機会が限られていることも要因と考えています。

そのため、近年の全地球規模で進行する気候変動のメカニズムを科学的な観点から分かりやすく理解するとともに、それが小田原の豊かな自然環境（相模湾の海洋生態系や森林・里山生態系、酒匂川流域の災害リスクなど）にどのような影響を及ぼすかを「自分ごと」として捉え直す機会として講演会を実施します。

また講演会の最後には、参加された市民同士での意見交換やディスカッション、そして脱炭素アクションの紹介などを通して、市民による脱炭素行動（再エネへの転換、設備導入など）を後押しすることを想定しています。

ターゲット

【年齢層】

高校生～社会人

【関心領域】

環境問題や脱炭素に関心がある人

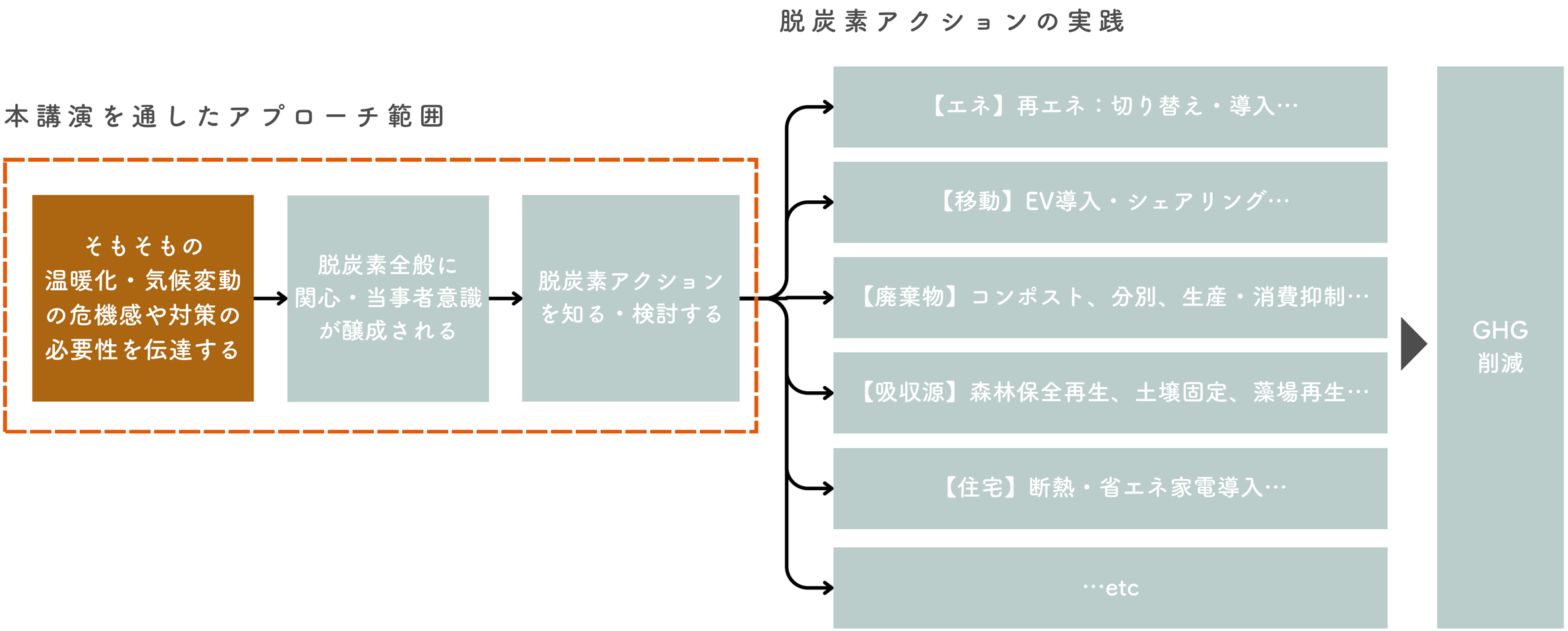
地域防災に関心のある市民

次世代に豊かな自然を残したい子育て世代

地域の環境変化（海産物の変化や異常気象）に関心のある方

など

本企画のねらい（意識変容・行動変容）



講演会（全2回）

第1回講演会

テーマ：気候

第2回講演会

テーマ：海洋

開催概要

〇 日時：2026年11月22日（日）
〇 場所：生涯学習センターけやき　視聴覚室
〇 定員：最大50名程度（現地の場合）
〇 当日の行程

- 14:00～14:15：チェックイン・イントロダクション
- 14:15～15:15（50分+QA10分）：講演「気象学から読み解く全地球的気候変動と影響」
  - 講師：三重大学大学院生物資源学研究科 立花義裕 教授
- 15:20～15:35（15分）：感想共有（3名グループ）
- 15:35～15:45（10分）：休憩
- 15:45～15:55（10分）：脱炭素アクションや事例紹介
- 15:50～16:15（25分）：ディスカッション
- 16:15～16:30（15分）：クロージング

講演概要

■講演①
テーマ：「気象学から読み解く全地球的気候変動と影響」
講師　：三重大学大学院生物資源学研究科 立花義裕 教授
概要　：
　「数十年に一度」と言われる異常気象が、なぜ毎年発生するようになったのか？
本講演では、気象学・気候力学の第一人者である立花教授をお招きし、現在地球規模で起きている気候変動の影響とメカニズムを科学的な視点から紐解きます。
　北極の海氷減少や偏西風の蛇行といったグローバルな現象が、私たちの住む日本の「猛暑」や「極端な気象」にどう直結しているのか。
　最新のデータと気候モデルを用いながら、複雑な地球システムの現状と未来予測について、専門知識がない方にもわかりやすく解説していただきます。

補足：グローバルな気候変動のメカニズムが、私たちの日常の天気や肌で感じる季節の変化にどう繋がっているのか、点と点が線になる納得感を醸成できればと考えています。

開催概要

〇 日時：2026年12月5日（土）
〇 場所：生涯学習センターけやき　大会議室
〇 定員：最大50名程度（現地の場合）
〇 当日の行程

- 14:00～14:15：チェックイン・イントロダクション
- 14:15～15:45（80分+QA10分）：講演「気候変動と海流・海洋生態系への影響」
  - 講師：NPO法人ディスカバーブルー 代表理事 水井涼太氏
- 15:45～16:00（10分+5分）：感想共有（3名グループ）＋休憩
- 16:00～16:10（10分）：脱炭素アクションや事例紹介
- 16:10～16:25（15分）：ディスカッション
- 16:25～16:35（10分）：クロージング

講演概要

■講演②
テーマ：「気候変動と海流・海洋生態系への影響」
講師　：NPO法人ディスカバーブルー 代表理事 水井涼太氏
概要　：
　全地球的な気温上昇は、私たちの身近な海にどのような変化をもたらしているのでしょうか。相模湾を中心に、海の環境保全や教育活動に取り組む水井氏にご登壇いただき、海流（黒潮の大蛇行など）の変化や海水温の上昇が、微小なプランクトンなどの視点も含めて、海洋生態系に与える影響についてお話しいただきます。
　「獲れる魚の種類が変わった」「磯焼け（海藻の減少）が進んでいる」といった地域の海で今まさに起きている変化の報告を通じ、気候変動が小田原の豊かな海と食卓に及ぼす危機を、水井氏のフィールドワークの実績に基づいて解説していただきます。

補足：地球規模の温暖化問題を、市民にとって最も身近な自然である「相模湾」のローカルな話題に変換することで、参加者の当事者意識（自分ごと化）を引き出せればと考えています。

講師概要



三重大学大学院 生物資源学研究科
気象・気候ダイナミクス研究室 教授
立花義裕氏

札幌南高等学校卒業。北海道大学大学院理学研究科博士後期課程修了。博士（理学）。小学生のときに、雪の少ない地域や豪雪地域への引っ越しを経験し、気象に興味を持つ。「羽鳥慎一モーニングショー」を始め、ニュース番組にも多数出演し、異常気象や気候危機の情報を精力的に発信。北海道大学低温科学研究所、東海大学、ワシントン大学、海洋研究開発機構等を経て、現職。 専門は気象学、異常気象、気候力学。2023年三重大学賞（研究分野）、2024年東海テレビ文化賞。日本気象学会理事、日本雪氷学会理事。



NPO法人ディスカバーブルー 代表理事
水井涼太氏

博士（環境学）、
横浜国立大学 非常勤講師、神奈川大学 非常勤講師
地域力創造アドバイザー（総務省 地域人材ネット）
東京都立日比谷高校卒業後、横浜国立大学教育学部、大学院環境情報学府修士課程、JAMSTEC(現：国立研究開発法人海洋研究開発機構）での勤務を経て、横浜国立大学大学院環境情報学府博士課程へ。在学中に同大学ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーのポスドク研究員に採用され、2011年に大学発ソーシャルベンチャーとして、ディスカバーブルーを設立。2012年～2017年横浜国立大学統合的海洋教育研究センター特任教員、2020年～地域力創造アドバイザー（総務省 地域人材ネット）、現在は横浜国立大学 非常勤講師、神奈川大学 非常勤講師を務める。

補足

地域に紐づいていなかったり、アクションを前提としていない状態での「情報伝達」だけでは、そう簡単に行動は変わらないと考えていますが、問題の正しい理解と対話の機会を経て、地域内でできる具体的な実践の選択肢を提示することと、課題意識を共有する仲間づくりを通して、行動変容を後押ししたいと考えています。

【認知する】構造的な理解による「他人事」の脱却
地球規模の気象学的なデータと、身近な相模湾などの生態系変化というマクロとミクロの事実を接続します。「遠い世界の問題」を「自分たちの生活環境を変容させる現実」として捉えさせ、既存の認識に変容を促します。

【身体化する】市民同士の対話と関係構築による「当事者意識」「身体性」の醸成
参加者同士の対話や共有の時間を設けることで、現実の生活圏に存在する対象と不安や危機感を共有できる場を提供。問題をバーチャルな情報としてでなく、自分自身の生活や現実、地域の実態と結びつけて体感し、身近な生活圏でアクセス可能な具体的なアクション（再エネ切り替え、コンポスト、EVなど）と紐づけることで、問題と現実、身体性を接続する機会を提供します。

市民の意識・行動変容の効果測定/確認方法

意識の変容プロセスと、実際の行動の定着を段階的に測定します。

1. **事前アンケート（申込時）：**
    - 気候変動に関する知識レベル、現在実践しているエコアクションの数を測定。
2. **事後アンケート（当日終了時）：**
    - 意識の測定： プログラム前後での「危機感の変化」および「自分にも解決に貢献できるという自己効力感（行動意欲）」の向上度を段階評価。
    - 行動意図の測定： 配布したチェックリストから「1ヶ月以内に実践すると決めた項目」を回答。
3. **フォローアップ調査（1ヶ月～3ヶ月後）：**
    - メール・アンケートにて追跡調査を実施。「宣言した行動を実際に起こせたか（再エネプランを切り替えた、資料請求をした、地元農産物を意識して購入した等）」を確認し、行動変容の実現率を定量的に測定。
4. **コミュニティ化と継続的情報/機会提供**
    - 関心の高い対象は、現在県西部を軸に、ゆるやかに運営しているサステナビリティをテーマとしたLINEグループに誘客し、継続的な情報提供・参加機会の提供を行い、行動変容を促す。

スケジュール（実施計画）

1. 開催3ヶ月前 ： 講師依頼、会場予約、広報素材の作成。
2. 開催2ヶ月前 ： 小田原市広報、UMECO館内配架、SNSを通じた参加者募集開始。
3. 開催1ヶ月前 ： 事前アンケートの集計、当日の進行台本・ワークショップ設計の最終調整。
4. イベント当日： 講演会・対話会の実施、事後アンケート回収。
5. 開催1ヶ月～３ヶ月後：参加者へのフォローアップ調査の実施、効果測定の分析。
6. 期末　　：収支決算、補助事業の完了報告書の提出。

実施・運営体制

○ 株式会社BUND　担当：長谷川

○ 協力スタッフ　担当：飛鳥田
担当：田中